

2023年3月期第2四半期 決算説明会資料



2022年11月11日
株式会社イーディーピー
東証グロース（証券コード:7794）

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

I

当社の概要

II

主要なポイント

III

決算実績

IV

通期見通し

APPENDIX

I 当社の概要



EXCELLENT DIAMOND PRODUCTS

ダイヤモンドも人工宝石 (LGD*) に置き換えられる時代が迫る

*LGD = Laboratory Grown Diamond

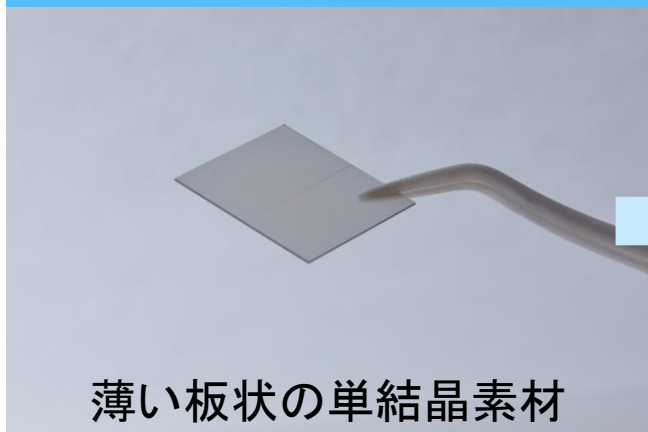
薄板状のダイヤモンド単結晶を製造し、
LGDの製造に必要な種結晶を販売。

種結晶の世界的なブランド企業である、
グローバルカンパニー

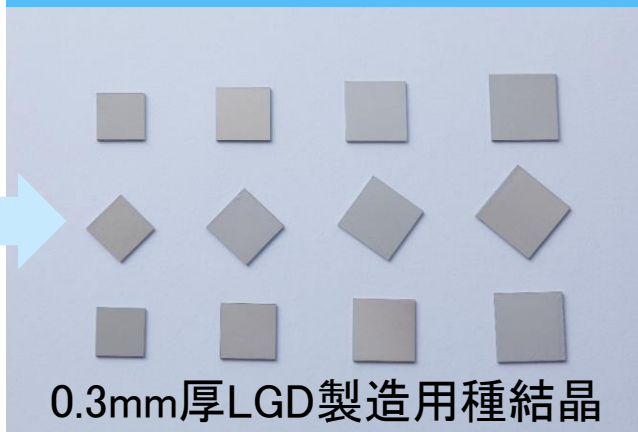
LGD製造に必須の原材料を供給

当社の主要製品

20x20x0.3mmのモザイク結晶
薄くて大きい結晶を直接作る技術



1カラット～3.5カラットの宝石に
使用する種結晶を製作する技術



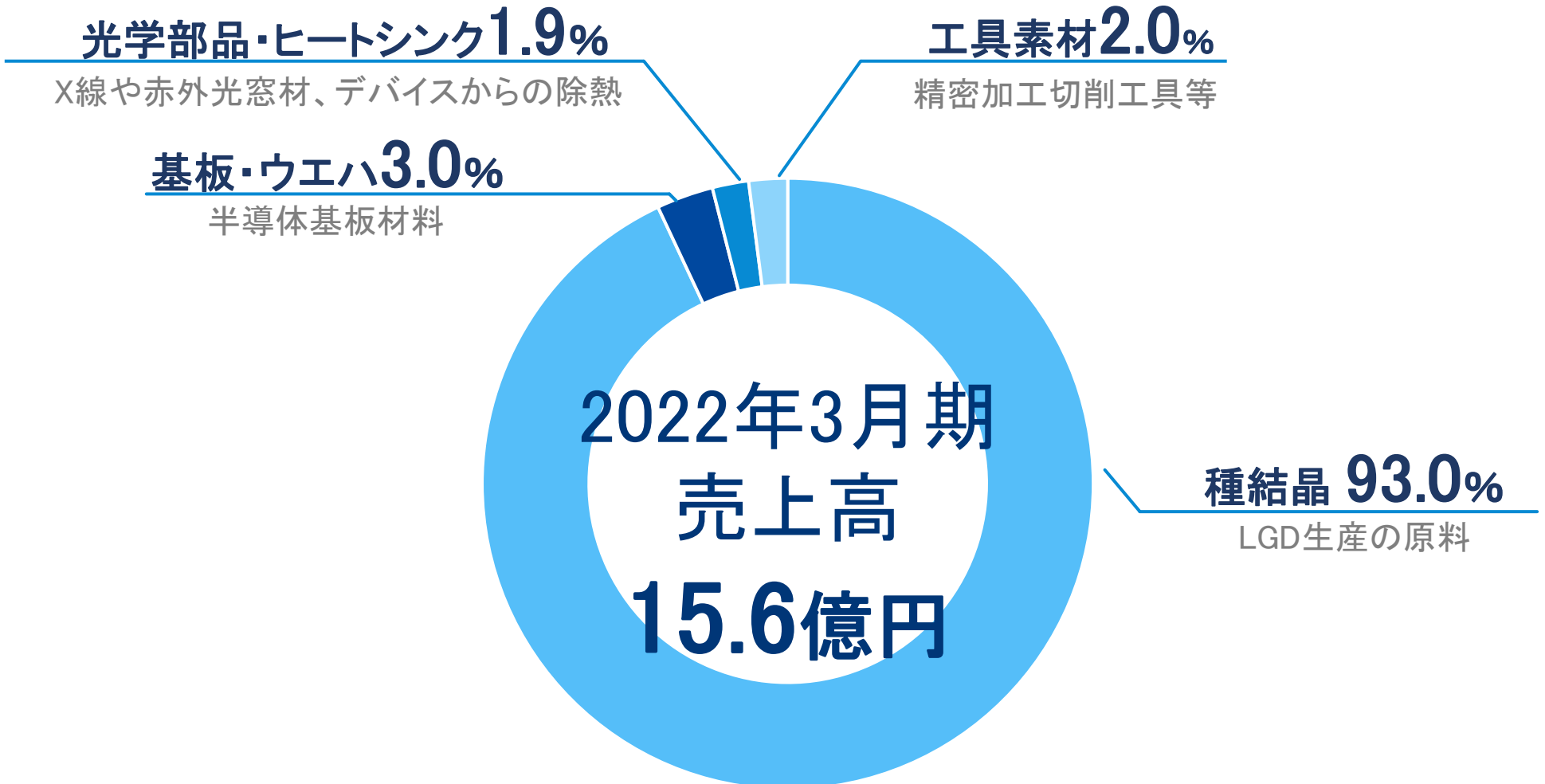
当社



ユーザー企業

LGD = Laboratory Grown Diamond (人工宝石)

製品分野別販売実績



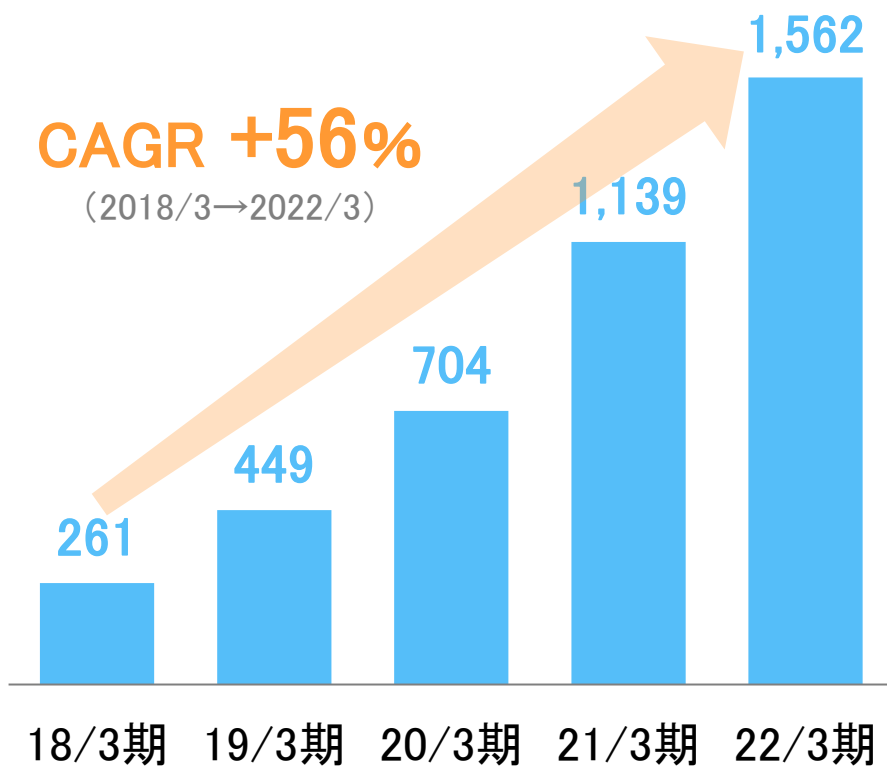
市場が拡大するLGD製造に必須の原材料販売で、高成長率を実現

売上高

(百万円)

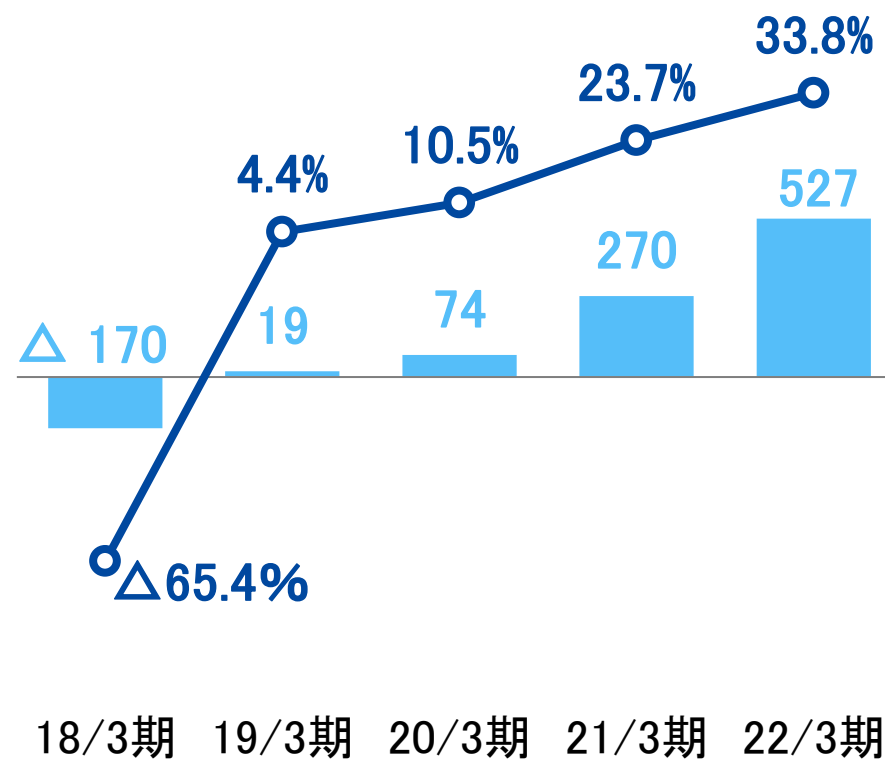
CAGR +56%

(2018/3→2022/3)



経常利益・利益率

(百万円)



Ⅱ 主要なポイント

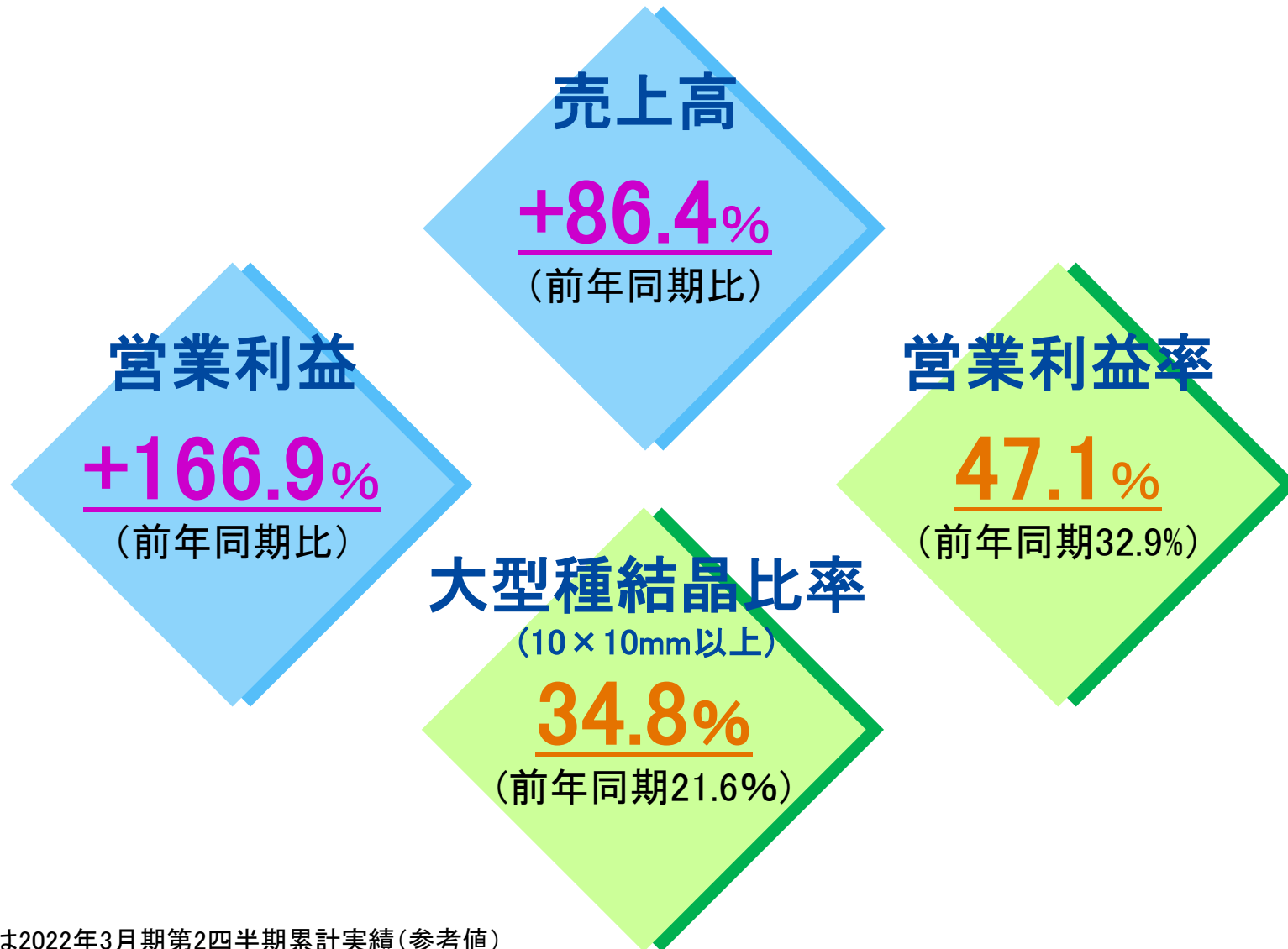


- ◆ LGD市場は堅調に拡大しており、種結晶のユーザーからの引き合いは強く、生産効率の向上と円安によって、予想を越える売上を達成
- ◆ 第3四半期以降に出荷する種結晶の受注は、上記の生産効率の向上を考慮した数量で獲得できている。このため、8月12日に公表した23/3期業績の修正予想を上回る売上が見込まれ、業績の上方修正を行った。
- ◆ 建設して来た島工場は完成し、設備の設置、調整が進んでいる。11月中に本格的な稼働が始まり、計画していた増産が出来る見通し。上記の種結晶生産効率向上は、島工場においても適用できる。
- ◆ 引き続き、米国の金利政策等による為替相場の変動、エネルギー費高騰による動力費等の増加、人件費の増大について注視

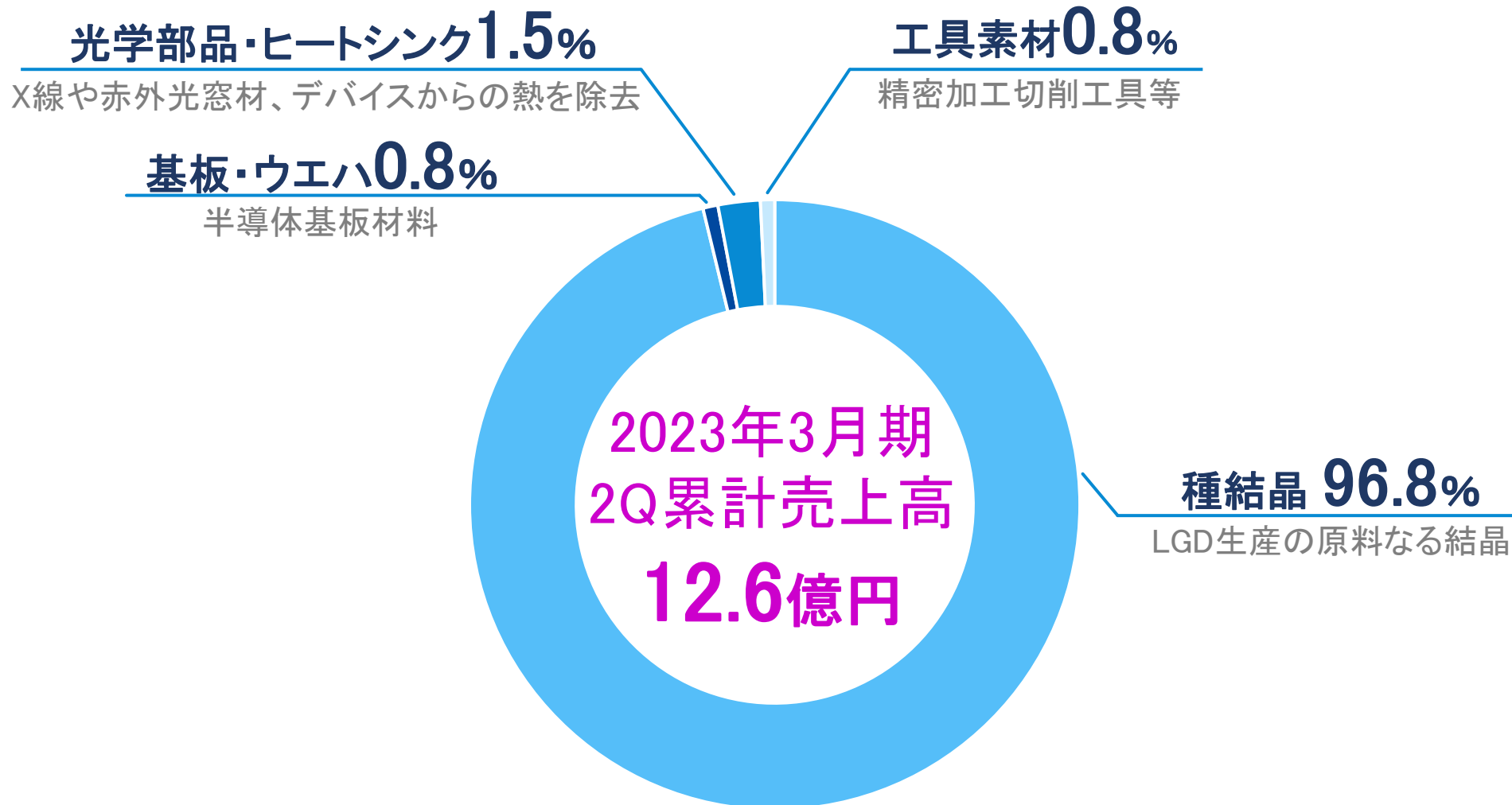


決算実績





※前年同期は2022年3月期第2四半期累計実績(参考値)



決算概況

(百万円)	2021年度		2022年度		
	2Q実績*	通期実績	2Q実績	前年同期比	
売上高	680	1,562	1,269	+588	+86.4%
種結晶	641	1,453	1,229	+587	+91.5%
基板・ウエハ	16	47	10	▲5	▲35.7%
光学部品・ヒートシンク	9	29	19	+9	+97.9%
工具素材	12	32	10	▲2	▲18.9%
営業利益	223	520	597	+373	+166.9%
経常利益	223	527	649	+426	+190.6%
当期純利益	173	374	460	+286	+165.4%
成長能力 (カラット)	108,000	110,000	125,700	+17,700	+16.4%
円/ドル (平均市場レート)	109.98	115.5	136.64	+26.66	+24.2%

*2022年3月期第2四半期実績は参考値

四半期別決算概要

(百万円)	2021年度				2022年度	
	1Q*	2Q*	3Q*	4Q	1Q	2Q
売上高	323	357	429	451	579	689
種結晶	302	339	396	414	557	671
基板・ウエハ	8	7	13	16	4	6
光学部品・ヒートシンク	2	6	11	9	12	5
工具素材	9	3	8	11	4	6
営業利益	107	116	163	133	241	355
経常利益	105	118	169	135	272	376
当期純利益	88	84	112	89	197	262

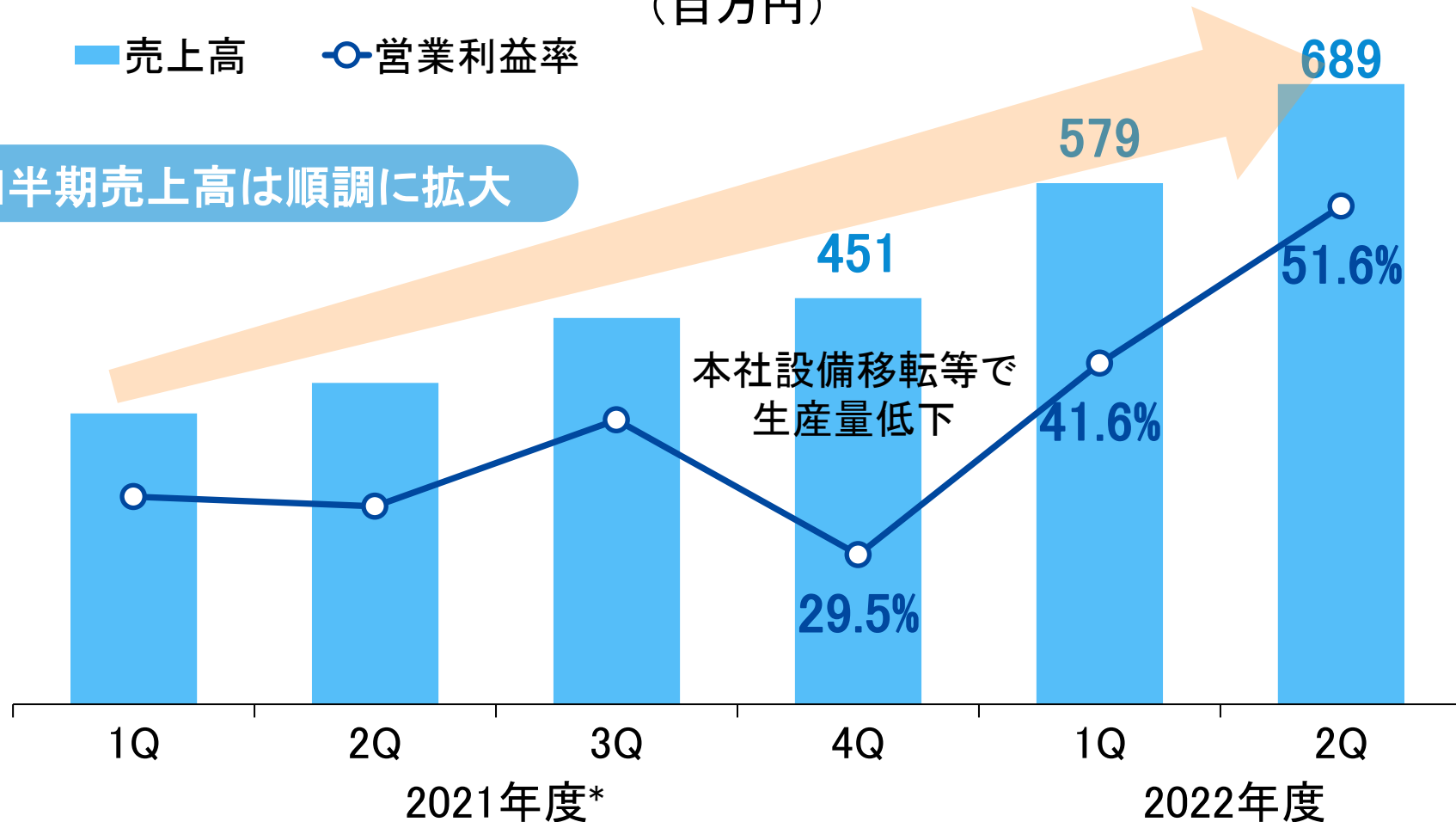
*2022年3月期第1四半期～第3四半期は参考値

売上高・営業利益率推移*

(百万円)

■売上高 ○営業利益率

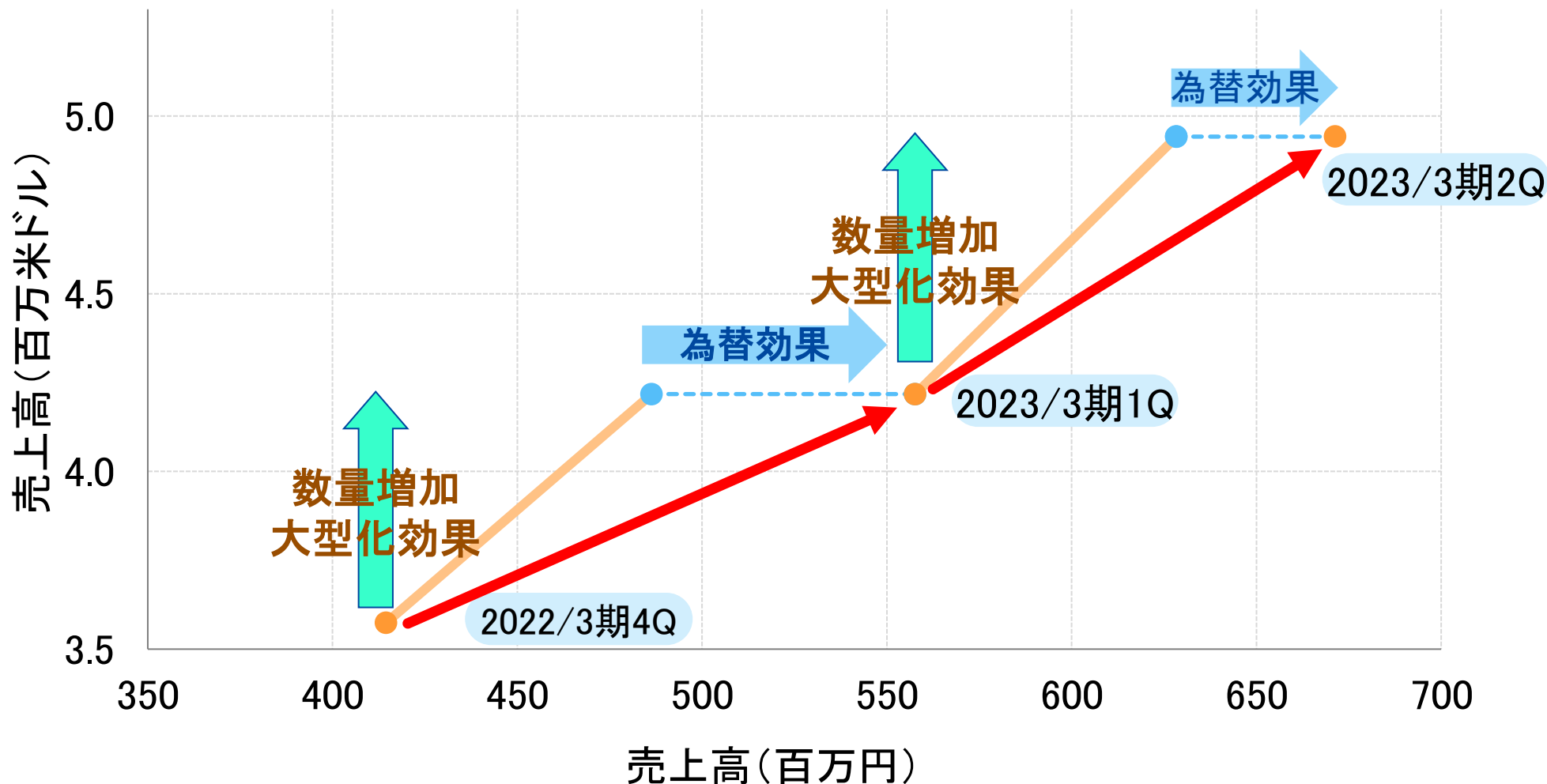
四半期売上高は順調に拡大



本社設備移転等で
生産量低下

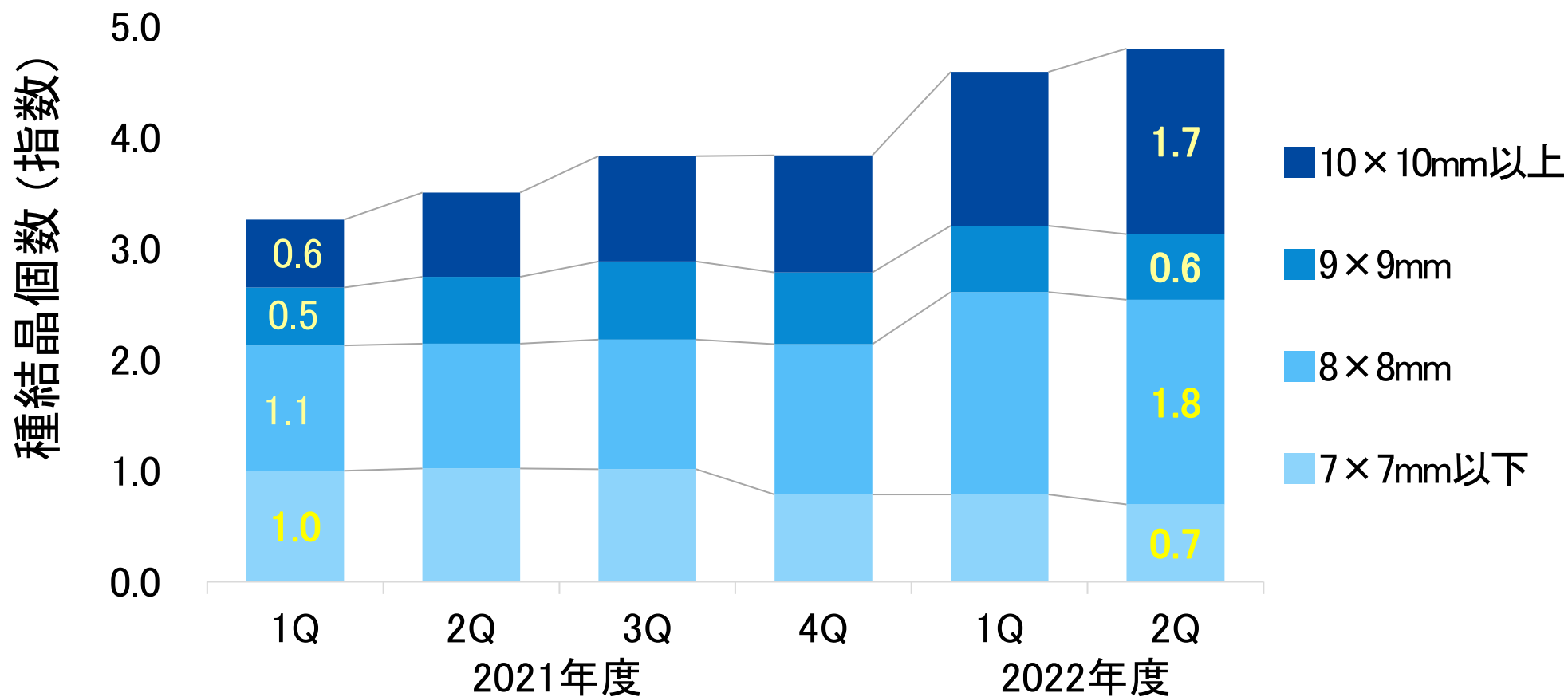
*2022年3月期第1四半期～第3四半期は参考値

種結晶売上高推移



種結晶サイズの推移

※2021年度1Qの7×7mm以下の売上個数を1として指数化



B/Sの概況

(百万円)	2020年度	2021年度	2022年度		
			2Q末	前期末差異	状況
流動資産	1,186	1,418	3,544	+2,126	
現預金	948	1,066	2,950	+1,883	
売上債権	100	137	240	+102	
棚卸資産	104	171	260	+89	仕掛品や親結晶の増加
固定資産	1,094	1,398	1,981	+582	有形固定資産(1,905百万円) 設備投資継続
総資産	2,280	2,817	5,525	+2,708	
負債	645	772	1,064	+291	未払法人税(200百万円) 設備関係未払金(238百万円)
有利子負債	452	439	394	▲44	
純資産	1,634	2,045	4,461	+2,416	自己資本比率80.7%
負債及び純資産	2,280	2,817	5,525	+2,708	



通期見通し



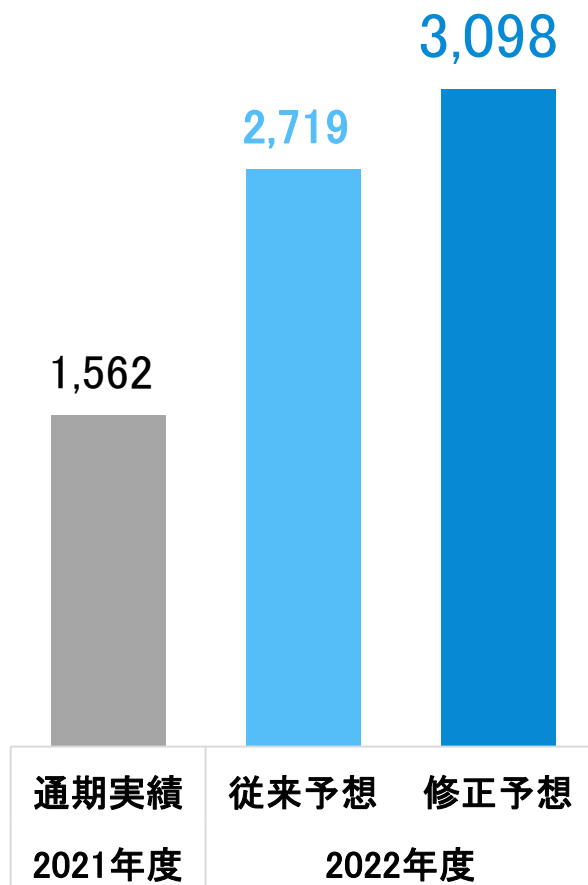
上方修正

2022年度見通し	従来見通し	修正見通し	(従来比)
売上高	2,719百万円	3,098百万円	+13.9%
営業利益	940百万円	1,365百万円	+45.2%
	2022年8月12日発表	2022年11月11日発表	
主たる修正要因	従来見通し	修正見通し	
為替前提(通期)	133.2円/ドル*	136.4円/ドル**	
大型種結晶比率	30%	38%	
(10x10mm以上の種結晶比率)	* 8月以降は135円/ドル前提	** 11月以降は140円/ドル前提	

種結晶生産量は、強い受注状況の継続に加え、
生産効率の引上げが当初想定以上であることを反映
島工場は予定通り第3四半期から売上に貢献

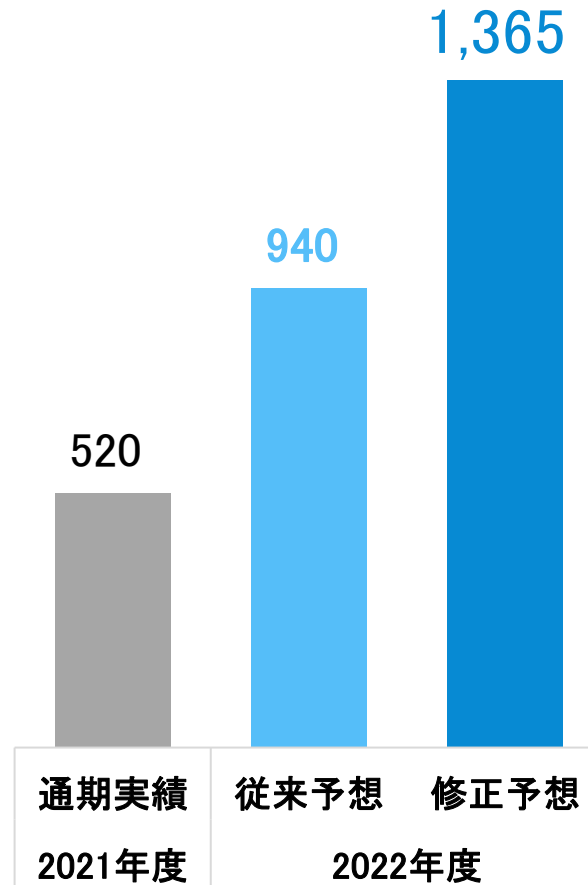
売上高

(百万円)



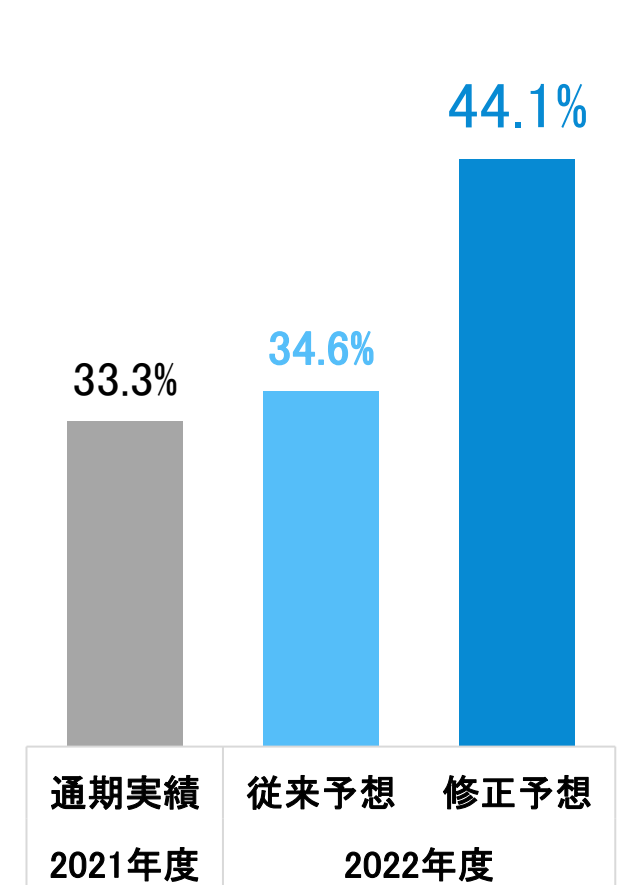
営業利益

(百万円)



営業利益率

(%)

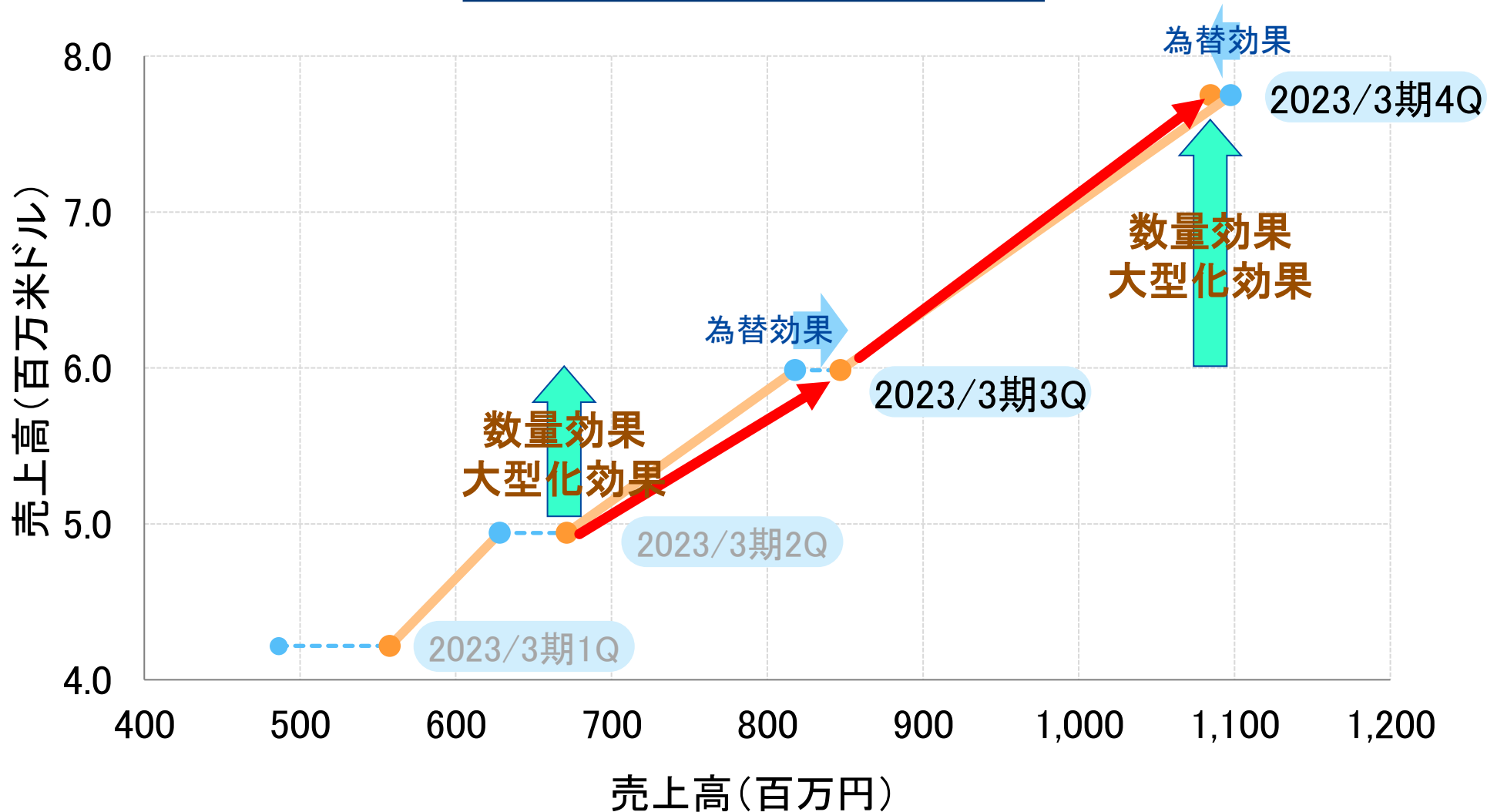


通期見通し概況

	2021年度	2022年度			
	通期実績 (百万円)	従来見通し (8/12)	修正見通し (11/11)	対前期比	
売上高	1,562	2,719	3,098	1,536	+98.3%
種結晶	1,453	2,599	3,030	+1,577	+108.5%
宝石原石	—	5	5	0	0%
基板・ウエハ	47	37	36	-13	-27.6%
光学部品・ヒートシンク	29	58	47	+18	+62.1%
工具素材	32	19	20	-12	-37.5%
営業利益	520	940	1,365	845	+162.5%
経常利益	527	965	1,428	901	+170.9%
当期純利益	374	675	997	623	+166.5%
成長能力 (カラット)	110,000	150,000	150,000	40,000	+36%
円/ドル (平均市場レート)	115.5	133.9	136.4*	+21.1	+18%

*11月以降の為替予測は140円/ドル想定

種結晶売上高 見通し



- ◆ 島工場は完成し、各種の製造設備のセッティングと使用条件の調整を行っている。第3四半期中にはフル稼働となり、計画通りに生産増加に寄与する見込み。既に開発した生産効率の向上策は、島工場にも適用できる。
- ◆ 為替変動状況とエネルギー価格上昇が、売上及びコストに与える影響が大きい。為替変動へのヘッジで想定以上の変動を回避し、太陽電池の導入等による省エネ施策を進めることで、これ等の変動に対応する。
- ◆ LGD市場の拡大は続く見込みで、種結晶ユーザーの動向を見極め、設備投資計画を柔軟に進める。
- ◆ 量子コンピューター等のダイヤモンドの新しい技術の進展に対応し、新製品の発売や、新技術の開発に注力する。

Appendix



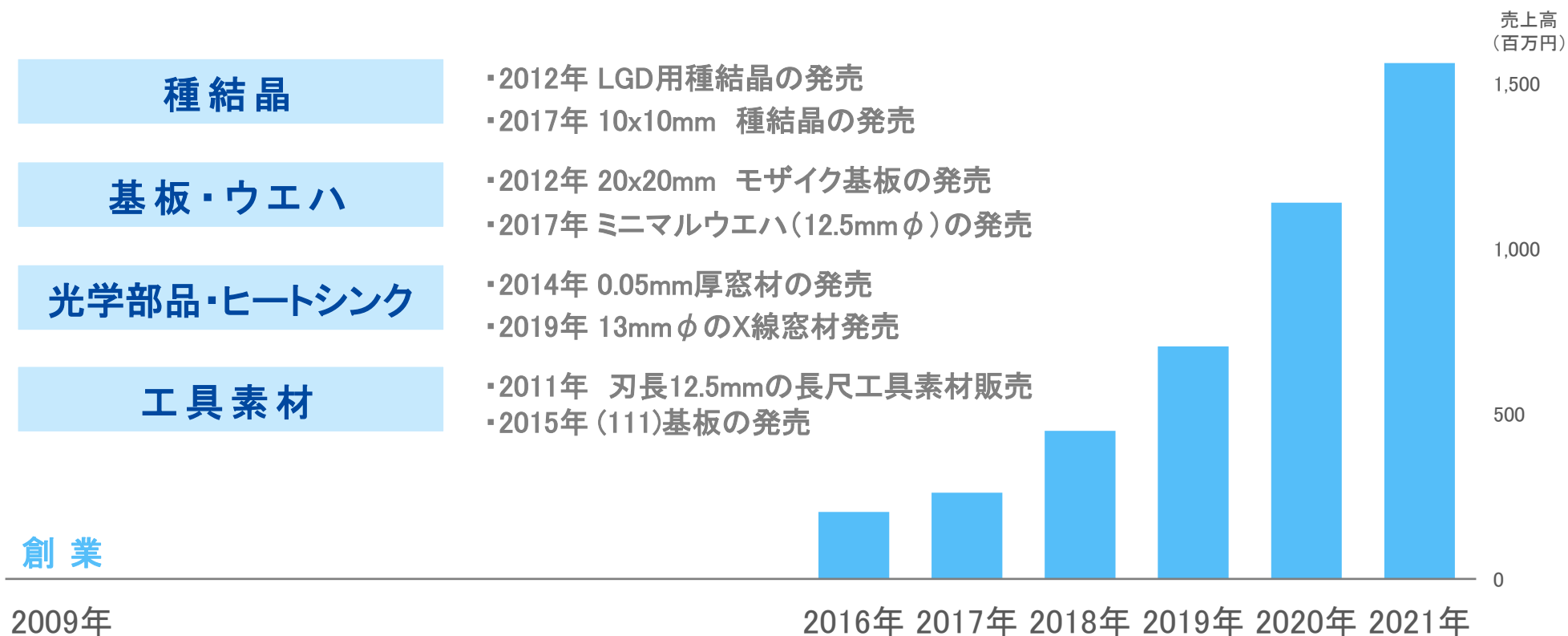
会社概要



社名	株式会社イーディーピー [英語名: EDP corporation]		
代表者	代表取締役社長 藤森 直治		
設立年月	2009年9月8日(産総研発ベンチャー第100号)		
本社所在地	大阪府豊中市上新田4丁目6番3号		
工場	横江第1工場、横江第2工場、島工場		
資本金	14億7,331万円(2022年9月30日現在)		
役員構成 (2022/9/30現在)	代表取締役社長 専務取締役 常務取締役 社外取締役 社外取締役	藤森 直治 高岸 秀滋 林 雅志 北城 恪太郎 加茂 睦和	常勤・社外監査役 監査役 社外監査役 岡田宗久 西野 徳一 池見達穂
事業内容	ダイヤモンド単結晶の製造、販売、開発事業		
売上規模	15億62百万円(2022年3月期)		
従業員数	76名(派遣25名を含む)(2022年9月30日現在)		
総資産	55億2,584万円(2022年9月30日現在)		
主な取引先	インド、イスラエル、米国等の宝石製造メーカー、計測器メーカー、エレクトロニクス関連企業、国内外の各工具メーカー、産総研等国内の研究機関、大学、海外の大学研究機関、台湾、韓国等海外工具メーカー		

- ◆ 産総研で開発した大型ダイヤモンド単結晶製造技術を事業化を目的として設立
- ◆ 気相合成法*により生成する種結晶を2012年に発売し、デファクトスタンダード化
- ◆ 研究開発用の各種基板、ウエハ、窓材、ヒートシンク素材等を研究機関や企業に供給

*気相合成法:気相(ガス)から成長したダイヤモンド単結晶を、加工せずに直接取り出す手法



当社マーケットポジション

- ◆ 当社が製造販売する種結晶供給はLGD市場の最上流に位置
- ◆ LGDを用いた宝飾品は価格面・品質面での安定性を追い風に着実に浸透



*出所: Bain and Company「The Global Diamond Industry 2020-21」 ラフ、ルースの市場規模は天然ダイヤモンドを含む

LGD市場規模 生産高

- ◆ ダイヤモンドは宝石市場が最大、研磨剤など他用途の10倍以上の規模があり重要
- ◆ 世界のダイヤモンド宝石市場はおよそ1.1億カラット、うち6%程度がLGD市場
LGDは鉱山開発による自然破壊等が無く、シェアは今後も拡大する見通し
- ◆ 気相合成法(CVD法)は高品質、大型宝石製作に最適な技術

世界のダイヤモンド宝石生産高

2020年見通し

ダイヤモンド宝石
1.1億カラット(22トン)

1~3%成長見込み

LGD市場
600~700万カラット
(全体の5.5~6.4%)

15~20%成長見込み*



(写真提供: Lusix)

気相合成法の宝石
300~400万カラット

(種結晶を用いて製造)

当社の種結晶販売先

当社の量産技術

- ◆ 産総研が開発の製造技術量産化のために、藤森*が在職中に創業
- ◆ モザイク結晶を使うユニークな製造フローを確立し種結晶等を製品化

*当時 産総研ダイヤモンド研究センター長/現 当社代表取締役社長



モザイク結晶自体を親結晶として用い、イオン注入による分離技術で、
親結晶と同じサイズのモザイク結晶を量産

モザイク結晶を使用する量産技術

製品化技術

ラボレベルの技術を
量産技術に発展

個別プロセスの改良、
生産性向上、量産規模などを達成

ユーザーの多様な要求に
応える体制
高付加価値製品指向

独占実施権



特許

◆ 板状単結晶製造技術

+

◆ モザイク結晶製造法

イオン注入による成長結晶の
分離技術

複数の単結晶を接続し、
大面積の疑似単結晶を製作する技術

- プロセスが確立して10年以上経過
- ノウハウを大量に蓄積
- 量産のカギになる親結晶を大量保有

- ◆ 増産のため建設して来た新工場(島工場)が完成し、22年11月に本格稼働
- ◆ 今後、毎年設備投資を進め、2026年3月の成長能力を現在の3倍弱に拡張
- ◆ 新成長装置の導入により、成長装置1台当たり生産能力の倍増も目指す

成長装置の単結晶成長量の推移*

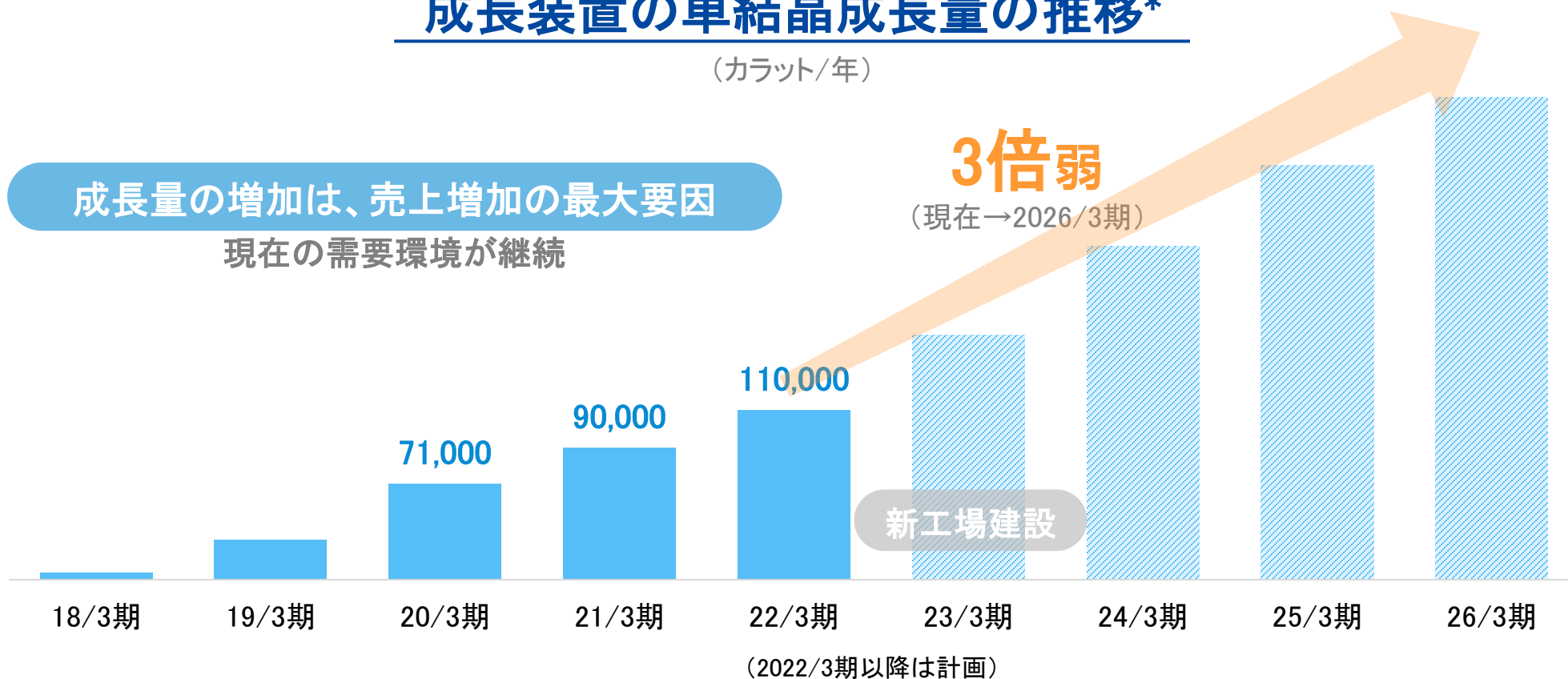
(カラット/年)

成長量の増加は、売上増加の最大要因

現在の需要環境が継続

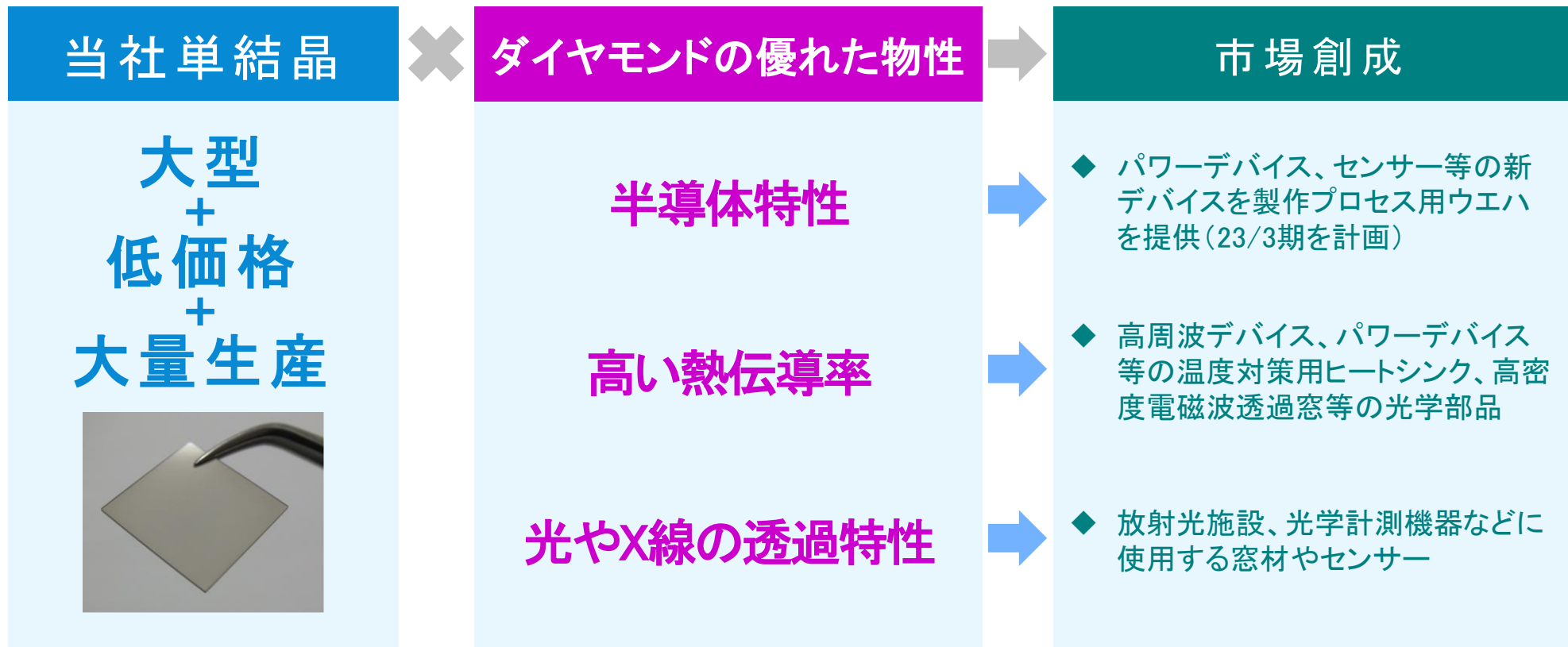
3倍弱
(現在→2026/3期)

新工場建設



技術開発による新市場創成

- ◆ 当社のダイヤモンドは大型サイズ+安価+大量生産可能
- ◆ 今後、ヒートシンク、光学計測機器、半導体デバイス向けの素材市場創成にも挑戦



決算年月		第9期	第10期	第11期	第12期	第13期
		2018年3月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月
売上高	千円	261,304	449,049	704,258	1,139,979	1,562,260
当期(四半期)経常利益又は経常損失	千円	△170,861	19,795	74,140	270,747	527,877
当期(四半期)純利益又は純損失	千円	△175,349	8,723	95,056	253,346	374,816
資本金	千円	183,750	190,000	234,240	477,420	495,170
発行済株式総数	株	17,700	18,200	18,753	21,453	2,180,800
純資産額	千円	696,367	717,590	895,596	1,634,943	2,045,259
総資産額	千円	957,873	1,102,207	1,549,031	2,280,212	2,817,554
1株当たり当期(四半期)純利益又は純損失	円	△101.07	4.88	51.34	131.54	174.13
自己資本比率	%	72.7	65.1	57.8	71.7	72.6
自己資本利益率	%	—	1.2	11.8	20.0	20.4
営業キャッシュフロー	千円	—	—	191,951	440,577	635,000
投資キャッシュフロー	千円	—	—	△434,012	△401,284	△545,005
財務キャッシュフロー	千円	—	—	309,129	525,955	15,666
現金及び現金同等物の期末残高	千円	—	—	372,126	948,034	1,066,995
従業員数	名	26	26	31	34	44